



# R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2010～2011 年度 高山中央 RC 会長テーマ  
「心をつくし、力を合わせて」

◆会長 清水 幸平 ◆幹事 大保木 正博 ◆会報委員長 今井 俊治 ◆会報担当 松之木 映一

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F  
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488  
◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600  
◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～  
◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

## <出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 871 回	48 名	47 名	41 名	—	87.23%
前々回 869 回	48 名	47 名	38 名	3 名	87.23%

<点 鐘> 会長 清水 幸平  
<ソング> 我等の生業

## <本日のゲスト>

ビルメロの会 理事長 廣瀬 英一郎 様

<会長の時間> 会長 清水 幸平



本日は、国際奉仕委員会の担当例会です。

ゲストとして、ビルメロの会の廣瀬英一郎さんをお迎えしました。ビルメロの会はミャンマーにおいて、現地の先生による寺子屋の運営に援助することや、医療活動の援助・協力などを行っています。

アラブの国々は今民主化の大きなうねりが起きようとしています。ミャンマーも一般市民は抑圧され、自由はありません。海外から援助しようとしても、当局によるチェックがあり、本当に困っている人には届くのは難しい現状です。しかし、ミャンマーは強い軍事政権の国家です。民主化はまだまだ難しい状況のようです。

ビルメロの会は小さなボランティア団体であり、資金力も影響力も弱小です。しかし、現地のミャンマーの人達は、

日本人がミャンマー人に手を差し伸べてくれている事実に対し、感謝の気持ちと、自分たちの将来への希望を抱いています。このビルメロの会の細い糸を何とか切れないようにしていただきたいと思っています。

本年度は、会員みなさまのご理解をいただき、7月の第一例会から募金箱を回し、ミャンマーの子供たちに暖かい協力をしていただきました。また、地区からも WCS 補助金の支援を受けることができました。この資金で日本の本や CD を購入し、ミャンマーの寺子屋で教材として使っていただくことになりました。

廣瀬さんは、昨年末にミャンマーへ渡航し現地の子供たちの様子を写真やビデオに撮ってきて下さいました。本日は、ミャンマーの国情や子供たちの様子を見ていただきます。ご理解をいただける方には、今後のご支援を宜しくお願いいたします。

## <幹事報告>

副幹事 新宮 一郎

◎国際ロータリー第 2630 地区 ガバナーより

- ・2011 年度会長エレクトセミナー開催のご案内

日時：3 月 19 日（土）10：30～

会場：四日市都ホテル

登録料：10,000 円

- ・ロータリーレートのお知らせ

3 月 1 日より 1\$ = 84 円

○高山ロータリークラブより

- ・例会変更のお知らせ

3 月 3 日（木）職場訪問例会

高山市学校給食センター

3 月 24 日（木）休会 定款により

4 月 14 日（木）休会 定款により

○ロータリー米山記念奨学会より

- ・ハイライトよねやま 132

<会報>

- ・高山 RC

## &lt;本日のプログラム&gt;

国際奉仕委員会 中田 専太郎 委員長



国際奉仕委員会では、国際貢献事業の一環として、ミャンマーの子供たちへの教育支援を行いました。

但し、現品としての教育用品を持ち込むのには困難な状況も想定されるため、NPOであるビルメロの会として実際にミャンマーへ行かれる理事長の廣瀬英一郎氏を介して、最終的には教育補助用品がミャンマーの子供たちに渡るように、現金で依託することとしました。

ミャンマーの政治、社会情勢が庶民レベルでどのようになっているのか、子供たちの教育への関心はどうか、実際の教育はどのようになされているのか、ということ等について、例会では、ビルメロの会理事長、廣瀬英一郎氏のお話をプロジェクターによる画像と併せてじっくりと聞くことが出来、国際貢献事業の必要性を理解することに繋がりました。

講話の後、先述した現金（当会員からの募金 10 万円と地区 WCS の支援金 10 万円の合計 20 万円）を講師に渡し、教育支援に活用していただくことをお願いしました。

## 「ミャンマーから見た日本」

ビルメロの会 理事長 廣瀬 英一郎 様



今日は、二つのこととお話ししたいと思います。一つは、私たちビルメロの会の活動ともう一つは、ミャンマーから日本がどのように見えるかについてです。

ミャンマーは、中国とインドに挟まれ、約 6000 万人の人

口を抱える、多民族多言語国家です。歴史的に日本とのかかわりが深く、1942 年から 1945 年まで日本軍が実質的に統治していました。その間、約 30 万人の将兵がビルマへ赴き、18 万人を超える日本兵が亡くなったと聞いております。収集されず放置されている遺骨が多数あるそうです。ビルメロの会は、ミャンマーで寺子屋、無医村への巡回医療、現地リーダー招聘、奨学金支給等の事業を行っております。寺子屋は、旧首都のヤンゴン市内に 11 か所あり、2011 年 1 月現在、約 200 名の子供たちが勉強しております。ミャンマーには経済事情により学校に通えない児童が多数おり、彼らに基礎教育を受ける場を提供しています。また、定期的に給食も提供しております。子供たちの中には、親がいない子や、親がいても三食食べられない子がいます。この子供たちに、たとえ少しでもお腹いっぱい食べさせてあげたいとの理由で給食の提供を始めました。

寺子屋の先生方は、先生会議において現地リーダーで開業医である Dr. サヤリーから指導を受けています。先生会議は、トーストマスターズクラブというリーダー養成プログラムの方法を取り入れ、各自積極的に意見を発表し、お互いの抱える問題を話し合う場となっています。2011 年 1 月の先生会議では、ノーベル経済学賞を受賞したミルトンフリードマン教授の「選択の自由」を教材として使用しました。Dr. サヤリーは、「先進各国は、なぜ巨額の財政赤字に苦しんでいるのでしょうか。それは、野放図に政府のお金を無駄使いしたからです。私たちは、他人のお金を他人のために使うときは、自分の為に自分のお金を使うように慎重に使わなければなりません」と説明していました。

次に、巡回医療ですが、Dr. サヤリーを中心に寺子屋の先生方も参加して、無医村を定期的に訪問しております。思い返すと、大新町で助産院を運営しておられる大沼れい子さんと北シャン州ナムサン村へ訪れたのが、巡回医療の始まりでした。標高 1500 メートルの見渡す限りの山々がお茶畑に開墾され、村人は農作業に忙殺されていました。医療を受けられない村人たちは、マカロン（体中を缶の底などでこする民間療法）と呼ばれる伝統医療を行っていました。村人は、家で死ぬ、道で死ぬ、畑で死ぬ、どこでも死ぬと聞き翌年から、Dr. サヤリーと定期的に訪れるようになりました。それ以来、北はカチン州から南はサイクロンで甚大な被害を受けたデルタ地帯まで、現地の医療スタッフと協力しながら村人を治療してきました。

巡回医療においては、寺子屋の先生をプロジェクトリーダーに指名し、計画の立案、実行、予算管理等を任せております。巡回医療終了時には、反省会を行い、次回の旅行をより効果的、効率的に遂行できるよう努めています。昨年 3 月には、冬頭町で開業されている荒谷睦先生、紀子さんが親子で巡回医療に参加され、村人の治療に当たられました。紀子さんは、「住むところも、食べる物も、服も心配ないから、ズーとここに住んで」と言われ、大人気でした。その時の詳しい様子は、報告書を持参しておりますので、後程ご覧いただけたらと思います。



ここからは、ミャンマーの人が日本をどう見ているかお話しします。ミャンマーのテレビは、国营放送が2チャンネルあるだけです。最近では、朝から晩まで韓国や中国のドラマを放映しています。若者の間には、韓国のファッションが流行り、家電製品も韓国製は人気があります。しかし、日本の映画や、アニメにも根強い人気があります。ドラエモンやナルトを原語で理解したいから、日本語を勉強している若者がいるのも事実です。「日本映画は、韓国や中国の映画と違って、何か一つは学ぶところがあり大変面白い。ヨーロッパやアジアとも違って、とてもユニークだ」と言われたことがあります。日本の伝統文化が、憧れを持って見られていると感じました。しかし、そのような日本が好きなミャンマーの人にとって、最近の日本は本当に情けないようです。「もっと軍備を増強して、島嶼部の守りを固めなければ、中国に盗られるぞ」と真剣に心配してくれるミャンマー人もいます。そのような方々は日本に、「自由を守り、広げていく大国であってほしい」と強く願っています。

現地リーダーの Dr. サヤリーは、2005年に、高山を訪れました。雪を初めて見たのと、貴クラブ会長の清水さんの御父上から、広島原爆の様子を聞いたのがとても強く印象に残ったと言っています。(御父上は、当時海軍所属で、呉に住んでおられたとお聞きしました。)

「たぶん、私の最初で最後の日本旅行だろう。日本は思った通り、美しい人々が住む、美しい国だった」と Dr. サヤリーは、帰国後友人たちに写真を見せながら説明していました。ミャンマーの人たちが日本に大きな期待、そして憧れを抱いてくれているのも疑うことのできない事実です。彼らの思いを受け止め、日緬友好の輪を拡げてゆきたいものです。



☆ビルメロの会は、一緒に活動していただける会員を募集しております。

下記まで、お気軽にお問い合わせください。

特定非営利活動法人 ビルメロの会

e-mail:qqyp44cd@etude.ocn.ne.jp

tel:058-26-5557

よろしく願い申し上げます。



#### <ニコニコBOX>

今日は国際奉仕委員会。先日より中東に感化され Face book を始めました。

皆さんも品格のある高山中央RCの精神を世界に発信するため Face book に登録しましょう。実名 Roma 字登録していますので Friend になりましょう。 **高木 純**

雪も溶け始め春らしくなりました。

**村瀬 祐治**

当社にて3/1から、岐阜県の公募事業による「母子家庭の母」就労支援事業を始めました。色々な場面での母子家庭の母でパソコンで給料を貰いながら勉強したいシングルマザーをご紹介します。 **久々野 国良**

すいません。本日早退します。

**坂家 賢司**